

(2) 平成24年度 札幌市行政評価委員会 市民参加の取組報告書

平成24年度 札幌市行政評価委員会

市民参加の取組
報告書

平成24年9月実施

札幌市 市長政策室

<目次>

I. 市民参加の取組の概要	32
1. 市民参加の取組の概要	32
2. ワークショップにおける議論のテーマ	33
(1) 行政評価委員会における評価対象の選定	33
(2) ワークショップのテーマの設定	33
3. 参加者について	35
(1) 参加者の選定方法	35
(2) 参加者の属性	36
4. ワークショップ開催までの流れ	37
5. 第1回市民参加の取組「対象テーマ別勉強会」の概要	38
II. 市民参加ワークショップの結果	39
1. プログラム	39
2. ワークショップの進め方	40
III. 各テーマの議論のまとめ	42
1. 市民ニーズや時代の変化に対応した市民への広報のあり方について	42
(1) 主な論点	42
(2) グループ内で出された質問	42
(3) 提案のまとめ	43
2. 児童相談所業務の現状を踏まえた、児童虐待の早期発見と的確な対処のための 取組のあり方について	46
(1) 主な論点	46
(2) グループ内で出された質問	46
(3) 提案のまとめ	47
IV. ワークショップのグループ議論の記録	49
1. 市民ニーズや時代の変化に対応した市民への広報のあり方について	49
2. 児童相談所業務の現状を踏まえた、児童虐待の早期発見と的確な対処のための 取組のあり方について	63
V. 参加者名簿	75
VI. 参加者アンケートのまとめ	76

VII. 対象テーマ別勉強会の記録.....	79
1. 対象テーマ別勉強会での説明内容	79
2. 対象テーマ別勉強会での質疑の概要.....	81
VIII. ワークショップ当日と対象テーマ別勉強会で使用した資料	85
1. 市民ニーズや時代の変化に対応した市民への広報のあり方について	85
2. 児童相談所業務の現状を踏まえた、児童虐待の早期発見と的確な対処のための 取組のあり方について	93

I. 市民参加の取組の概要

1. 市民参加の取組の概要

◆実施の目的

札幌市では、行政評価における外部評価の取組として、「市民参加の取組」と市外部の有識者による「札幌市行政評価委員会」を実施しています。

外部評価は、市役所内部の評価による客観性や透明性を確保するための取組で、この「市民参加の取組」は、市民の皆さまに札幌市の取組への理解を深めていただくとともに、行政評価へ直接参加する市民自治の実践の場とすることを目的としています。

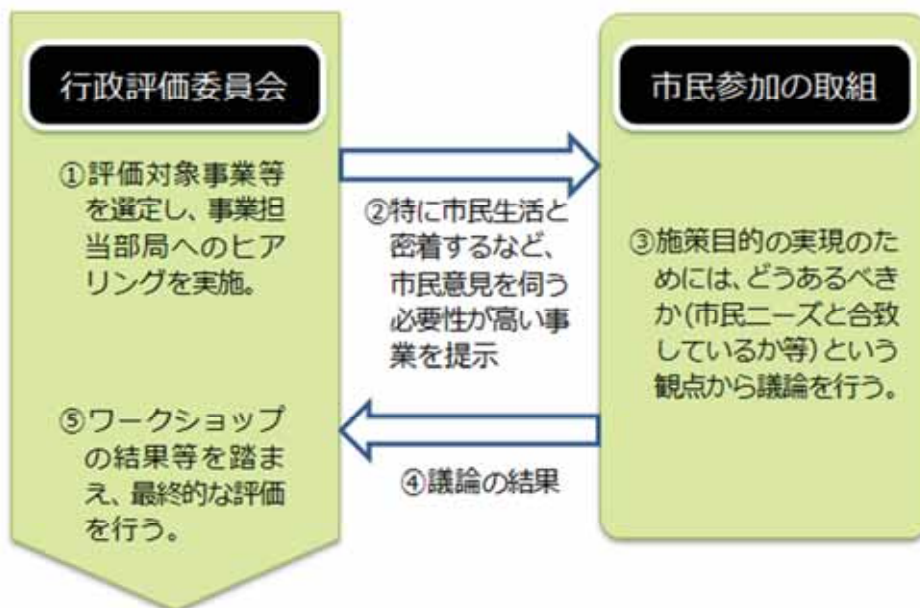
◆取組の進め方

今年度の「市民参加の取組」は、行政評価委員会における評価対象事項のうち、特に市民目線・市民感覚を踏まえる必要性が高いテーマについて、施策目的の実現のために、市の取組はどうあるべきかという観点から市民の方に意見交換（ワークショップ[※]）を行っていただき、市民の方のご意見・ご提言をうかがうこととしました。

◆成果の活用

ワークショップにおける議論の結果は、行政評価委員会に報告されます。

行政評価委員会では、その専門的な知見からワークショップにおける議論の結果についての検討を深め、最終的な評価を行い、報告書にまとめる形で結果を活用します。



※ワークショップ：いろいろな立場、考えの人が集まり、お互いの意見を理解しあいながら、課題や方向性を見出す「参加型の会議」

2. ワークショップにおける議論のテーマ

(1) 行政評価委員会における評価対象の選定

行政評価委員会における評価の対象となった施策のうち、「市民参加の取組」の対象は、「市民自治の実践による地域づくりの支援」と「健やかな育ちの推進」の二つを選定しました。その選定理由は次のとおりです。

◆市民自治の実践による地域づくりの支援

高齢社会といわれる人口構造の急激な変化に伴い、札幌も平成27年をピークに人口減少に転じることが見込まれ、戦後初めての人口減少という歴史的転換点を迎えようとしています。

このように将来を見通すことが難しい厳しい社会経済情勢の中で、市民が市政に参加し、自ら知恵や力を出し合い、安心して誇りを持って暮らせる地域社会を守り育てていく市民自治は、今後ますます重要なものとなってくると考えます。これらのことから、「市民自治の実践による地域づくりの支援」に関連する施策・事業を行政評価委員会としての評価対象に選定しました。

◆健やかな育ちの推進

少子化が進行している札幌市では、子育ての支援や子どもの健全育成といった取組が、今後ますます重要な課題となっています。その中でも、近年、児童虐待が社会問題となっている点などを踏まえ、子どもたちの「健やかな育ちの推進」に関連する施策・事業を行政評価委員会としての評価対象に選定しました。

(2) ワークショップのテーマの設定

「市民参加の取組」の対象とした事業について、ワークショップのテーマを次のように設定しました。

◆市民自治の実践による地域づくりの支援 関係

テ マ : 市民ニーズや時代の変化に対応した市民への広報のあり方について

設定理由

市民参加や市民自治を進める上では、市民と市役所が、市政や地域の情報を共有し、まちづくりへの関心を高めるとともに、参加を通じて議論を重ね、実践していくことが何よりも重要となります。

札幌市では、様々な世代の多くの方を対象に、生活に密着する多様な情報を発信しています。

そして、市民自治を推進していくための前提となるこれらの情報を、的確かつ効果的に伝えることは、今後ますます重要なものになっていくものと考えます。

行政評価委員会としては、市民のライフスタイルや情報提供媒体の多様化など、社会情勢が大きく変わっていく中で、どのように効果的に広報・広聴をしていくかという点について、市民の皆さんの意見を聞くことは大切であると考え、ワークショップにおける議論のテーマを「市民ニーズや時代の変化に対応した市民への広報のあり方について」（以下、「広報・広聴」と略す場合あり）としました。

◆健やかな育ちの推進 関係

テーマ：児童相談所業務の現状を踏まえた、児童虐待の早期発見と的確な対処のための取組のあり方について

設定理由

「健やかな育ちの推進」に関連する事業についての評価過程で、札幌市の児童相談所における児童虐待の相談件数が、高い水準で推移していることがわかってきました。これらの子どもを取り巻く課題に対応していくため、札幌市では、札幌市児童相談体制強化プランを策定し、児童相談所の機能・体制強化などの取組を進めています。

しかしながら、改めて児童相談所の機能を考えると、行政としての適切な対応はもとより、広く市民の皆さんにも関心を持っていただき、市民ぐるみで子どもの「健やかな育ち」を支えて行くことが大切であると考え、「児童相談所について」を意見交換の対象としました。

そして、その中でも特に児童虐待については、地域における市民の皆さんのご理解やご協力により状況の改善につながる部分も多くあります。虐待防止に対して、市民の皆さんの力をどのように活かすことかできるのか。また、活かして行くためにどのような施策が必要か、という点についてご議論いただきたいと思います。

以上の理由から、ワークショップにおける議論のテーマを「児童相談所業務の現状を踏まえた、児童虐待の早期発見と的確な対処のための取組のあり方について」（以下、「児童相談所」と略す場合あり）としました。

3. 参加者について

(1) 参加者の選定方法

ワークショップの参加者の選定にあたっては、ドイツで考案された市民討議の手法で、政策判断に有効とされる「プランニング・セル※」を参考にし、無作為抽出の市民に参加者募集のご案内を送付した上で、参加を受諾した方の中から、以下のとおり選定しました。

- ・参加者募集のご案内送付：無作為抽出の市民 3,000 名
- ・参加定員：最大 100 名程度
- ・参加受諾者：95 名
- ・当日の参加者：78 名

●参加者募集のご案内の概要

○参加資格（以下の全てを満たす方）

- ・「参加承諾書」をご提出いただいた方
- ・現在札幌市在住の方（転居等で札幌市外へ転出された方は応募できません）
- ・札幌市職員ではない方
- ・事前勉強会に出席できる方
- ・ワークショップは公開で行い、報道機関による撮影や傍聴者が会場に入ること、参加者個人が特定できる形で記録を公開する場合があることに承諾いただける方

○謝 礼：所得税引後 6,560 円（交通費込み）

○その他

少しでも多くの方に参加いただけるよう、事前勉強会やワークショップ当日は託児室を設けること、車いす使用等でお手伝いが必要な場合は対応可能な旨を付記しました。

また、ワークショップの実施にあたっては、各テーマについて、多角的な視点から意見をいただくため、参加者を以下のグループに分けて、議論を行いました。

	参加者数	グループ数	1グループの人数
午前（広報・広聴）	40 名	6	6～7 名
午後（児童相談所）	38 名	6	5～7 名
計	78 名	12	—

※プランニング・セル：無作為抽出の市民に謝礼を支払って参加していただき、少人数で議論を行う手法で、無作為抽出により選ばれた参加者は、性別、年齢、居住地などの面から市民の縮図となるため、少人数であっても、市民意見を代表する公平な議論が行なわれることが期待され、また、謝礼を支払うことにより、仕事としてワークショップに責任を持って取り組んでいただくことが期待される。

(2) 参加者の属性

ワークショップ当日の参加者の属性については以下のとおりです。グループ編成については、年齢や性別、居住区などの属性ができるだけ異なるように配慮しました。

【性別・年代別】 (単位:名)

対象テーマ	年代							総計
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代		
広報・広聴	3	1	4	8	13	11	40	
男性	1	0	1	2	7	6	17	
女性	2	1	3	6	6	5	23	
児童相談所	4	7	10	10	5	2	38	
男性	1	3	3	3	2	0	12	
女性	3	4	7	7	3	2	26	
総計	7	8	14	18	18	13	78	
男性	2	3	4	5	9	6	29	
女性	5	5	10	13	9	7	49	

【居住区別】 (単位:名)

対象テーマ	居住区											総計
	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区		
広報・広聴	2	2	8	8	5	2	2	4	5	2	40	
児童相談所	4	5	6	2	6	0	3	4	2	6	38	
総計	6	7	14	10	11	2	5	8	7	8	78	



ワークショップの様子 (広報・広聴)



ワークショップの様子 (児童相談所)